

## 子どもの性的虐待経験と自殺

もりた  
森田 ゆり  
エンパワメント・センター主宰

性的虐待は沈黙の暴力ともいわれる。加害者が強い沈黙、被害者が守る沈黙、周りの人を受け入れる沈黙。ゆえに被害が発生しても表面化することはまれで、適切な介入につながらないことが圧倒的に多い。

日本で初めての大規模な全国調査によると、18歳未満の女子の39.4%、男子の10%、13歳未満の女子の15.6%、男子の5.7%が被害を受けている。対象は18歳以上39歳以下の女性5,000人、男性2,000人。回答が得られたのは女性1,282人、男性299人（子どもと家族の健康調査委員会「子どもと家族の心と健康」調査報告書）日本性科学情報センター、1999年）。

国際的な研究の場でしばしば引用される子どもへの性的虐待の統計数値によれば、性的虐待は3~4人に1人の女子（Russell,E.H.,1986）、5~6人に1人の男子（Finkelhor,D. et al.,1990）に起きている。男子は女子に比べて遙かに多くの家庭の外での性的被害にあう。米国の調査では、性的虐待の被害時の平均年齢

は9.3歳で、0歳から18歳の中間年齢にある。被害年齢の幅広い分布を示す。

性的虐待は心に深い傷を子どもに残す。その深刻さは人格形成の核心ともなる信頼の心を打ち碎くことにある。人を信頼することへの恐れと疑い、無力感、自責感と自己嫌悪、そしてセクシュアリティ（性的感情と性的認識）の混乱は、世界全体への不信感をもたらし、日常生活にも大きな支障をきたす。PTSDの発生率も性的虐待は極めて高いことが知られている。米国の大規模な住民調査では、レイブによるPTSD発症率は男性65%で女性49%、自然災害では男性4%で女性5%。身体的暴力は男性2%で女性21%という結果が出ており、性被害が与える深刻さを明らかにしている。（Kessler,R.C., Sonnega,A., Bromet,E. et al., 1995）

かつて性的虐待は発覚しても、周りの大人が「犬に噛まれたと思って早く忘れないさ」と被害によるダメージを否認してきた。性被害を受けた子どもたちは、虐待そのものがもたらした外傷に加え、周りの人間の無理解による二次被害によってさらに傷を深め、孤立感、自責感、罪悪感を募らせる。具体的には次のような影響が顕著である。自傷、自殺、自殺未遂の繰り返し、不安抑うつ、棄物等への依存、摂食障害、家出、逆行などの逸脱行動、性化行動（人前での頻繁な性器いじり、他の子どもへの性的加害行為）、無差別的性行動（援助交際等）、パニック障害、解離、その他複雑 PTSD 等の諸症状。性的虐待は心理的苦痛のみならず身体にも影響をおよぼし、性的虐待のトラウマを持つ人は生理不順や頭痛、腰痛、免疫不全症候群等に悩まされている。

特に自殺との関係では、1980年代から歐米を中心に統計調査研究が行われており、子ども時代の性的虐待経験が高い頻度で自殺をもたらすことが明らかにされている。最近の研究では、「自殺を試みた女性の27%が、その原因を子ども時代の性的虐待に持っていた」（Bebbington,P., Royal College of Psychiatrists, Liverpool, 2009）と報告されている。性的虐待の予防と早期発見・早期介入に力を注ぐことの大切さを改めて指摘したい。

## マンガコーナー

## テーマ「同性婚と家族」

藤本 由香里（明治大学国際日本学部准教授）

「家族とは、父と母と、その血を引いた子どもでつくるもの。それがくふつう！」——という常識に、「たとえ血がつながっていないでも、形が違っても、家族は家族」と、少女マンガが、その後の変化を先取りするようなイメージを打ち出したのが80年代後半。その後、「赤ちゃんと僕」「うさぎドロップ」など、「男の子育て」の時代をへて、マンガの中の「家族」は、「同性婚」を視野に入れる時代に入ってきた。鳥野しの「オハナホロホロ」はその典型と言えるだろう。

一緒に暮らしているのは、元恋人同士だった麻耶とみちる、みちるの子のゆうた。下の階に住んでいるゆうたの父・圭一の「友人」だったゲイの二ノ木詩子育てに加わる。「若いころ みちるはケモノのようにホンボーで／…さみしくなると男でも女でもおかまいなしで」。麻耶とみちるは2年ほど一緒に暮らした。けれどある日突然みちるは出でていき、5年ほどたって再会してみると、みちるは幼い子供をつれたシングルマザーになっていた。それがゆうた。

子どもが子どもを育てるようなみちるを見かねて、麻耶は一緒に暮らし始めるが、次の保護者をみつけたらいつまた突然出でていくか



■ オハナホロホロ ■ ふたりのママからきみたちへ  
わからぬみちるとはもう、そうい関係にはならないと決めている。ただでさえ保育園で「ふたりで子どもを育てて家族のふりをしているなんて、あのお宅はヘン」と言われたりするのだから。  
麻耶にもみちるにも、好きになってくれる男の人が現れる。たぶん世間的には、それぞれに結婚した方がベター。でも……二人の心は離れる。麻耶が迷うのは、「世間の目」があるから。つまり私たちのせい。でも、幼いゆうたは今、とても幸せそう。さて二人の決断は——？  
『ふたりのママからきみたちへ』は、東京ディズニーランドで結婚式を挙げたことで有名になった同性愛カップル・東小雪さんと増原裕子さんの新著のタイトル。いつか、麻耶とみちるとゆうたが、私たちの隣で自然にほほ笑む、そんな日常が来る日を信じたい。

北九州市立男女共同参画センター・ムープ  
〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4Tel: 093-583-3939 ホームページ: <http://www.kitakyu-move.jp>  
Fax: 093-583-5107 E-Mail: [move@move-kitakyu.jp](mailto:move@move-kitakyu.jp)

## Cutting-Edge 第50号

発行 北九州市立男女共同参画センター・ムープ  
発行日 2014年2月28日  
指定管理者は(公財)アジア女性交流・研究フォーラムCutting-Edge  
[カティング・エッジ]ジェンダー問題解決の  
カギを提示する  
最前线書誌情報誌女性は結婚の条件に  
「男性の家事・育児能力」を重視  
—平成25年度版厚生労働白書をジェンダーの視点から読む瀬地山 角  
東京大学大学院  
総合文化研究科教授

変わらなくなりました。さらに何よりびっくりなのは、「家事・育児能力」が95.9%、「仕事への理解」が92.0%と、男性→女性よりも高い点です。しかも家事・育児能力では、「考慮」よりも重い「重視」の比率(61.1%)が、経済力(の重視41.2%)よりも高く、なんど人柄に次いで2位なのです！

よく「若年層は保守化している」といわれますが、男性が「期待する」女性のライフコースで「専業主婦」と答えるのは、1987年の37.9%から単調減少し、2010年にはわずか10.8%。女性の「理想とする」ライフコースでも「専業主婦」は1987年の33.6%から1997年に20.6%まで落ち、2010年で19.5%なので、保守化というより、「下げ止まり」という感じです。

しかも当の女性たちが「予定する」ライフコースでの「専業主婦」は1987年の23.9%から2010年ではわずか8.7%まで下落しています。専業主婦を抱えたいくと思う男性も、専業主婦になるだろうと思う女性も、いまや1割なのです。結婚しようと思うのなら、「生存戦略」を変えた方がいいと思いませんか？

経済力や職業は、人生の途中で急に好転させるのが難しい要素ですが、家事・育児や仕事への理解を示せば、低収入男性にも結婚のチャンスあり！

というわけで私は、お勉強がどうもあり好きではないらしい小学生の息子に、いつも夕食の準備を手伝わせています。宿題と家事の両立、これもワーク・ライフ・バランスの練習です。

おもしろいところでは、女性→男性への条件でも「容姿」が年々伸びて76.2%と、男性→女性とあまり